令和六年度入学者選抜学力検査本試験問題

国　語

（配　点）

1	2	3
33点	38点	29点

（注意事項）

1　問題冊子は指示があるまで開かないこと。

2　問題冊子は一ページから十九ページまである。検査開始の合図のあとで確かめること。

3　検査中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、静かに手を高く挙げて監督者に知らせること。

4　解答用紙に氏名と受験番号を記入し、受験番号と一致したマーク部分を塗りつぶすこと。

5　解答には、必ず**ＨＢの黒鉛筆**を使用すること。なお、解答用紙に必要事項が正しく記入されていない場合、または解答用紙に記載してある「マーク部分塗りつぶしの見本」のとおりにマーク部分が塗りつぶされていない場合は、解答が無効になることがある。

6　一つの解答欄に対して複数のマーク部分を塗りつぶしている場合、または指定された解答欄以外のマーク部分を塗りつぶしている場合は、有効な解答にはならない。

7　解答を訂正するときは、きれいに消して、消しくずを残さないこと。

著作権の関係上、非公開

1

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

（注1）茅屋＝みすぼらしい家。あばら家。
（注2）芭蕉＝江戸時代の俳人で、『おくのほそ道』『幻住庵記』『三冊子』の作者。「蕉風」は芭蕉とその一門の作風をいう。
（注3）知己＝自分のことをよくわかっていてくれる人。
（注4）俗塵＝俗世間のわずらわしい事柄。
（注5）屹立＝高くそびえたっていること。
（注6）李白＝中国の詩人で、『春夜宴桃李園序』の作者。
（注7）井原西鶴＝江戸時代の浮世草子作者、俳人。『日本永代蔵』の作者。
（注8）物見遊山＝気晴らしにあちこち見物すること。
（注9）歌枕＝和歌の題材とされた名所、旧跡。
（注10）形而上的＝形がなく、感覚でその存在を認識できないこと。精神的。
（注11）キメラ的＝同じもののなかに異なるものが同時に存在すること。
（注12）市井＝人が多く住んでいるところ、まち。
（注13）垂訓＝教えを示すこと。教訓を後世の人に残すこと。

問1　本文中の、①安全ケン、②ヘン境、③観コウ、④超ゼン　のカタカナ部分の漢字表記として適当なものを、それぞれアからエまでの中から一つ選べ。

①安全ケン　ア 間　イ 件　ウ 権　エ 圏
②ヘン境　ア 片　イ 辺　ウ 変　エ 返
③観コウ　ア 行　イ 港　ウ 光　エ 好
④超ゼン　ア 全　イ 然　ウ 漸　エ 禅

問2　本文中の、かなわない（A）と同じ品詞の「ない」を、本文中のaからdまでの中から一つ選べ。

a　わけではない　b　頼りない　c　いいようのない　d　できない

問3　本文中に、(1)飄々として霞を食らいながら茅屋で句をしたためている　とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　世間と離れたところに身を置いて、人や金銭にとらわれず質素な生活を送りながら俳句を作り続けている。

イ　人並みの暮らしはどうにか保ちながら、定住することなく旅の中に身を置いて俳句を生み出し続けている。

ウ　俳諧師として高い評価を得ることだけを心の支えとして、日々世間の人に向けて俳句を発信し続けている。

エ　人々の好奇の目にさらされないよう郊外に住み、人間の愚かさを皮肉に眺めながら俳句を詠み続けている。

問4　本文中に、(2)「夏炉冬扇」のごとき俳諧　とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　火鉢であぶられるような真夏の暑さ、扇であおがれるような真冬の寒さといった極限の環境に着想を得て作られるのが俳諧だということ。

イ　暑い夏に火鉢を取り出し、寒い冬に扇を持ち出すのが時季外れで意味のないことであるように、俳諧も現実では役に立たないということ。

ウ　夏に火鉢を使って暖まり冬に扇を用いて涼むといった、常識に縛られない自由な発想によってこそ俳諧は生み出されるものだということ。

エ　真夏に火鉢で体を熱したり、真冬に扇で体を冷やしたりするように、あえて苦境に身を置いて耐え忍ぶことで俳諧は磨かれるということ。

問5　本文中に、(3)俗塵を遠ざけたみずからの境遇を驕る　とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　現実生活では役に立たない「無能無才」の自分だが、世俗を離れ自然の中に身を置いたからこそ、地中からたっぷりと養分を吸い上げ葉を茂らせる「椎の木」の生命力に癒されて名句を生み出せたのだと自負している。

イ　世俗の汚れに染まらないために人との関わりを避けねばならず、清貧を保ち続けるために物欲を断たねばならなかった自分の身の上を恨めしく思い、「椎の木」を相手に俳句を詠むことで不満を解消しようとしている。

ウ　これまでは世俗を離れるしかなく人や金に縁がないまま俳句の道を極める日々を過ごしてきたが、そのおかげで「椎の木」の名句が生まれ、この句をきっかけに世俗での名声を得られるのではないかと野心に燃えている。

エ　自分が頼りとしたのは、現実に生活を営むうえで助けとなる人や金ではなく、堂々と立つ「椎の木」の存在であったと示すことを通じて、世俗に染まらず俳句に生涯を捧げた自らを誇らしく思う気持ちを述べている。

問6　本文中に、(4)二人の人生観の相違とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　芭蕉は、刻々と変化する時間や空間に身を任せていくことで、自らも「古人」になりきって創作をしていこうと考えたが、西鶴は、変化する時間と空間に流されないよう生きていくために、変わらない価値を持つお金をためようと考えた。

イ　芭蕉は、多くの時代を経てもなくなることのない船頭や馬方などの現実的な職業のなかに人生の意味を見いだしたが、西鶴は、永遠に価値が変化しないお金を子孫に残していくことだけが人生にとって意味のあることだと考えた。

ウ　芭蕉は、刻々と変化する時間と空間のなかで身分や時代を超えて現実の世の中を眺めるのが重要であると考えたが、西鶴は、移ろいゆくはかない世の中であっても、子孫のためになるのでお金をためることには意義があると考えた。

エ　芭蕉は、変化する世の中にあっても価値の変わらない「古人」を理解することこそが自らの人生にとって最も意味のあるものだと考えたが、西鶴は、世の中を不変と捉え、価値が変化しないお金を子孫に残すことに意味があると考えた。

問7　本文中に、(5)芭蕉の旅そのものが、当時としては異質であった。とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　芭蕉の旅は、名声や収入を得る目的もあったが、それ以上に、かつて和歌に詠まれた場所を訪れ思索を深めるというものであり、娯楽のための旅を基本とする江戸時代の人々には理解しがたいものであった。

イ　芭蕉の旅は、現実的な側面が全くなく、自分だけの俳句の世界を作り出すために思索にふけるという哲学的なものなので、実用的な旅がほとんどであった江戸時代の人々には受け入れられないものであった。

ウ　芭蕉の旅は、名声や金銭を得るのが主要な目的であったが、そのやり方があまりにさりげなく、諜報活動と疑われるほどであったため、のんびり旅を楽しんだ江戸時代の人々には理解されないものであった。

エ　芭蕉の旅は、金銭を得るためという側面もあったが、蕉風を伝え俳諧師としての名声を得ることが主な目的であり、それに向かう真剣さは、旅を娯楽とする江戸時代の人々には受け入れがたいものであった。

問8　本文中に、(6)芭蕉は、この複雑さを受け入れて、苦しみながらも名句を生み出した。とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　世俗の生活を詠んだ過去の作品を題材としつつ新しい表現を得るという俳句の複雑さを受け入れて、芭蕉は試行錯誤しながら優れた俳句を生み出したということ。

イ　世俗の言葉で詠みつつ皮肉に満ちた態度を示さなくてはならないという俳句の複雑さを受け入れて、芭蕉は自問自答しながら俳句を詠んだということ。

ウ　世俗を超えた視点を持ちつつ世俗の心を詠むものであるという俳句の複雑さを受け入れて、芭蕉は悪戦苦闘しながら優れた俳句を生み出したということ。

エ　世俗の生活を詠むものでありつつ定住する人間には作れないという俳句の複雑さを受け入れて、芭蕉は東奔西走しながら優れた俳句を生み出したということ。

2　次の文章【Ⅰ】は、人工知能（ＡＩ）の研究者川村秀憲（かわむらひでのり）と俳人大塚凱（おおつかがい）の対談で、文章【Ⅱ】は、文章【Ⅰ】で触れられている高柳克弘の『究極の俳句』の本文である。この二つの文章を読んで、後の問いに答えよ。

【Ⅰ】

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開【Ⅱ】

（注１）人口に膾炙（する）＝多くの人が口にし、広く知られる。
（注２）教師データ＝ＡＩに学習させるために必要なデータ（情報）。
（注３）背景知識＝ある状況や問題を理解するために必要な情報。
（注４）与謝蕪村＝江戸時代の俳人。
（注５）萩原朔太郎＝大正から昭和にかけて活躍した詩人。
（注６）齟齬＝食い違うこと。
（注７）郷愁＝昔のことを懐かしむ気持ち。
（注８）子規派＝正岡子規を中心とする俳句の一流派。

問１　空欄 ① 、 ② 、 ③ に入る語として適当なものを、それぞれ**ア**から**エ**までの中から選べ。**ただし、同じ記号は二回使わない。**

ア だが　**イ** すると　**ウ** 例えば　**エ** つまり

問2　本文中の、(a)機微、(b)担保　の意味として適当なものを、それぞれ次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

(a)　**ア** 内部でひそかに進行する事態や状況。　**イ** 表面からはわかりにくい趣や事情。
　　ウ 状況に応じて変化する感覚や感受性。　**エ** 好意と反感の間で抱く葛藤や苦悩。

(b)　**ア** 負担となるもの　**イ** 保存するもの　**ウ** 保証となるもの　**エ** 促進するもの

問3　本文中に、(1)夏目漱石が「I love you」を「月がきれいですね」と和訳したという逸話があります。とあるが、語り手はこの逸話を紹介することでどんなことを説明しようとしているか。最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア ことばの周辺にある意味を理解することは、ＡＩにはもちろん普通の人にとっても決して容易ではないということ。
イ 比喩表現や抽象的な言語表現で表された意味を読み取ることは、人間には可能だがＡＩには極めて困難だということ。
ウ 月を恋人に見立てるなどの比喩を一つ一つ教えれば、ことばの周辺にある意味をＡＩに学ばせることが可能だということ。
エ 漱石の逸話のような例を背景知識として知らなければ、比喩表現や抽象的な言語表現を読み取ることはできないということ。

問4　本文中の、(2)情報のエンコード（符号化）とデコード（復元）という問題に関わってきますね。という一文は、この対話の中でどんな働きをしているか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア 相手の意見に同意しながらも、異分野の専門用語を用いた新たな問題を提示し、質の異なる二つの議論を並行して進めようとしている。
イ それまでの話題を総括しながらも、新たな学術用語を用いて話題を転換し、それまでと全く違う内容の議論を新たに始めようとしている。
ウ 斬新な意見を提示しながらも、その時点での互いの意見を改めて確認することによって、議論全体の最終的な結論をまとめようとしている。
エ 前の話題を受け継ぎながらも、異分野の専門用語を用いることで新たな角度からその問題にアプローチし、議論を発展させようとしている。

問5　本文中の、(3)音源データのＭＰ３や画像データのＪＰＥＧ　の性質を、語り手はどうとらえているか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア データを圧縮した側と解凍する側が異なるため、再生する際に情報の変質が起きて、それがかえって創造的な結果をもたらすことがある。
イ 実際は元のデータと異なるものが再生されているが、おおむね正しい上に利便性が高まるので、むしろより有益な伝達形式だと言ってよい。
ウ 元のデータをそのまま完全に再生することはできないため、個々人の解釈によって、受け取る情報の精度が変わってしまう危険性がある。
エ 厳密には元のデータと異なるものが再生されるが、人間の感覚ではその違いが区別できないので、情報を正しく伝える形式と見なしてよい。

問6　本文中の、(4)蕪村の最初の意図と、朔太郎の読み　の説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　蕪村は垣根の外の白梅にそれを植えた人の存在を感じ、朔太郎は白梅の植えられた垣根の外に詠み手の恋人がいると解釈しているが、両者ともに人の存在と懐かしさを感じているという点で共通している。

イ　蕪村は垣根の外の白梅にそれを植えた誰かの存在を感じたが、朔太郎は垣根の外の白梅を少年時代・青年時代の思い出をたどるきっかけと見ており、両者にとって白梅の持つ意味は大きく異なっている。

ウ　蕪村は垣根の外の白梅に親しかった人々の息づかいを感じ、朔太郎も白梅に詠み手のかつての恋人の姿を見ており、両者ともに故郷への郷愁と懐かしい人々への思いを抱いているという点では同様である。

エ　蕪村は垣根と白梅からかつてそこにいた人々に思いを巡らせたが、朔太郎は白梅を少年期から今に至るまでの詠み手の感情の象徴と考えており、他者への関心という点で両者は相反する解釈をしている。

問7　本文中に、(5)俳句やことばは「アナログ」的と思われているかもしれませんが、けっしてアナログではありません。とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　俳句やことばの意味は曖昧なのでアナログ的だと思われがちだが、細部に違いはあっても基本情報が誤って伝わることは少ない。

イ　俳句やことばによる表現には古さが伴うのでアナログ的だと思われがちだが、現代社会でも有益な表現形式となる可能性は高い。

ウ　俳句やことばは解釈に幅があるのでアナログ的だと思われがちだが、それは解釈上の問題であって、元の情報が変化することはない。

エ　俳句やことばには誤解が生じるのでアナログ的だと思われがちだが、それは互いの知識が異なるためで、対話する上では支障がない。

問8　本文中に、A デコード時に齟齬が発生したような一例　とあるが、これを文章【Ⅱ】で述べられている内容に当てはめる場合、「デコード時に齟齬が発生したような一例」に**該当しないもの**はどれか。破線部**a**から**d**までの中から一つ選べ。

a　蕪村の句の根幹に「郷愁」「母性思慕」を読み取り、その抒情性が強調されている。

b　この句に恋の主題を認めた

c　「誰むかしより」とぼかしたことのムードを評価する

d　一句に物語性を与え、より親しみやすい句になった

問9　文章【Ⅰ】と【Ⅱ】は、ともに蕪村の「しら梅や」の句に対する萩原朔太郎の解釈は「誤読」だと述べているが、そのように判断する根拠については、【Ⅰ】と【Ⅱ】で少し違いがある。その違いについて述べた次の説明文の□に当てはまる表現として最も適当なものを、**ア**

からエまでの中から一つ選べ。

〈説明文〉文章【Ⅱ】（髙柳克弘の『究極の俳句』）では従来の一般的な解釈をもとに朔太郎の解釈を誤読としているが、文章【Ⅰ】の対談では、これに加えて、［　　］ことを根拠として誤読としている。

ア　人の息づかいや香りを感じるという点では情報を共有できている

イ　西欧から「愛」の概念が入ってくる以前に詠まれた句である

ウ　エンコードからデコードという一連の流れに齟齬がない

エ　俳句は一万回書き写しても、書き損じがなければ情報が劣化しない

3　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

（注１）対峙＝向き合って立つこと。
（注２）東屋＝庭園や公園内に休憩、眺望のために設けられる小さな建物。
（注３）悟性＝物事を判断・理解する思考力。
（注４）ニューロン＝神経細胞。

問１　本文中の、(a)かぶりを振る、(b)我に返った　について、ここでの意味として最も適当なものを、それぞれ次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

(a)
ア　両肩を上下に振っておどけてみせる　　**イ**　頭を左右に振って否定する
ウ　手を左右に振って慌てたそぶりをする　　**エ**　帽子を上下に振って合図する

(b)
ア　普段の意識に戻った　　**イ**　初心を思い出した　　**ウ**　息を吹き返した　　**エ**　自我に目覚めた

問2　本文中に、(1)これこそ博物館にふさわしい絵だと感じた理由　とあるが、宮下さんの絵を博物館にふさわしいと感じた理由とはどんなことか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　対象をじっくりと観察し、細かな部分も見逃さないで正確に写し取ろうとする宮下さんの真剣な態度から、博物館で展示される生物の絵を描く専門家としてのプライドを強く感じられたこと。

イ　とても難しいクジラの骨の絵を淡々と描く宮下さんの仕事ぶりを見て、発掘の現場をリアルに再現している博物館の絵に、世界中の注目を集めるほど、学術的な価値があると確信できたこと。

ウ　一瞬のリズムで美しい曲線を引く宮下さんのスケッチには圧倒的な技術の高さが表れていて、博物館に展示されていた絵にも、多くの人の鑑賞にたえうる芸術性がはっきりと見て取れたこと。

エ　単に生物の形を正確に写し取るだけではなく、生物が自然の中でその形態にたどり着くまでの時間さえも、宮下さんはその絵で表現しようとしており、それが博物館の絵にも表れていたこと。

問3　本文中に、(2)夢のある話、というか、夢みたいな話ねえ。とあるが、宮下さんがこう言ったのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　とても実現するはずのない下らない話ではあるものの、想像だけなら楽しいだろうと感じたから。

イ　よく知られた有名な話ではあるものの、現実にあるとは信じ難い内容に行き着いてしまったから。

ウ　現実にあったら面白い話ではあるものの、実現する可能性はそれほどなさそうに思われたから。

エ　子どもの視点では希望にあふれた話ではあるものの、大人の立場では興味を持てない話だから。

問4　本文中に、(3)ただのクジラ好きのオヤジとしてなら　とあるが、網野先生がこのようにことわったのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア　自分はまだ研究者として勉強が足りておらず、クジラの考えていることを十分に研究し理解できているという自信がないから。

イ　クジラやイルカの知性については十分に解明できていないため、研究者としては明言できず、想像力を働かせるしかないから。

ウ　クジラの知性に関する科学的なデータは得られているものの、発掘調査の仕事が忙しく、まだ十分に研究を進めていないから。

エ　研究者のキャリアよりクジラ愛好家として過ごした時間の方が長く、その立場からなら自信を持って説明できると感じたから。

問5　本文中に、(4)わたしは、何だかとてもうれしくなった　とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から

一つ選べ。

ア ヒトが発達させてきた外向きの知性では思いもよらないことを、クジラが内向きの知性で考え続けてくれている、と感じられたから。

イ クジラとともに海へ潜る想像をすることで、ヒトとはまったく違うクジラの思考に触れ、その印象を深く心に刻むことができたから。

ウ 海で泳ぐクジラたちの音の世界に包まれることで、謎だった歌の意味を理解することができ、全身が震えるほどの感動を覚えたから。

エ 妄想の世界とはいえ、自分の息が続くかぎり静かな深い海のなかをクジラと自由に泳ぎまわって、この上ない満足感を得られたから。

問6 本文中に、(5)この子には、世界をありのままに見つめる人間に育ってほしい。とあるが、「わたし」は娘の将来にどんなことを期待しているか。その説明として最も適当なものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

ア 世間からの様々な評価にとらわれず、信念をもって自分の道を進んでいくこと。

イ 自分の好きなことに打ち込み、綿密な調査を重ねて自然の真理を発見すること。

ウ 自分の目に映った世界の姿を、作品として正確に写し取る芸術家になること。

エ 目の前の世界で自分にできることにめぐりあい、それを生かして生きていくこと。

問7 本文中の、(6)還る海をさがすことは、もうないだろう。という表現について、それがどういうことを表しているか、生徒たちが話し合っている。会話文の［ I ］に当てはまるものを、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選べ。

生徒1 「わたし」は、空想の世界に入り込むことが多いみたいだね。網野先生の話を聞きながら「わたしの意識は、海へと潜っていった。」とあるから、ここは海へ潜る空想をしているんだね。

生徒2 すぐ後で「だがもうわたしは、プランクトンではない。」とも言っているけど、どういうことだろう。

生徒3 この本文より前の部分に、こんな記述があったよ。

プランクトンもいいな、とふと思った。
わたしが海に還るとすれば、の話だ。
深海魚、あるいは貝もいいと思っていたが、プランクトンが一番いいかもしれない。
プランクトンに生まれて、海中を漂う。自分の意思や力で泳いだりしなくていい。ただ潮の流れに任せるだけ。喜びもないけれど、苦痛もない。生きていると実感することもないだろうが、それは今も同じだ。
そのうちに、巨大な影が近づいてくる。シロナガスクジラだ。あっという間に飲み込まれる。

束の間の静寂。気づけばまた、プランクトンとして生まれている。そして、クジラの餌になる。永遠にその繰り返し。最高だ。

本文には「わたしの息苦しい日常」とあるし、この文章には「自分の意思や力で泳いだりしなくていい。」「クジラの餌になる。永遠にその繰り返し。最高だ。」ともあるから、プランクトンになって「海に還る」というのは、日常からの現実逃避なんじゃないかな。

生徒２　じゃあ、「だがもうわたしは、プランクトンではない。」っていうのは、「わたし」の心境に何か変化があったってことだね。

生徒１　網野先生からクジラの歌や、人間には想像できないようなクジラの知性や精神の話を聞いた後では、空想の「わたし」はプランクトンじゃなく、自分の姿でクジラと泳いでいるよ。

生徒３　クジラが暗く、冷たい海で一人静かに深く考えごとをしていると知って、自分と似たものを感じたのかもしれないね。この場面では、そのままクジラと別れて、人間の姿で海面に上がってきているから、「わたし」は最後には［　Ⅰ　］と感じられるようになったんじゃないかな。

生徒２　そうか、だからもう「還る海をさがす」必要はない、っていうことなんだね。

ア　空想に頼ってばかりいなくても、いつか誰かが自分を助けてくれると信じて生きていける

イ　現実に傷ついてばかりいなくても、嫌なことを全て忘れることで心地よく生きていける

ウ　空想に逃げ込んでばかりいなくても、自分なりに現実と向き合いながら生きていける

エ　現実にこだわってばかりいなくても、自分が本当に望むことを空想しながら生きていける